

RUBeC 演習を終えて

沢田 隼

Hayato SAWADA

環境ソリューション工学専攻修士課程 1年

1. はじめに

私は、2016年8月13日～29日の間、RUBeC演習に参加した。まず、RUBeC（ルーベック）とは、2006年に開設したアメリカのカリフォルニア州バークレーにある浄土真宗センター内の龍谷大学の教育・研究の海外拠点のことであり、Ryukoku University Berkeley Centerの略称である。RUBeC演習では、ライティングとプレゼンテーションの授業を受け、英語論文の投稿や国際学会での発表ができるようになることを目的としている。また、企業見学や協定校であるUC Davisに訪れ、会社の雰囲気や大学で行われている研究に触れる。私は約二週間の間に、RUBeCやホームステイ先、UC Davis、企業見学（Thermal Technology LLC）を通して、自分の研究の英語論文の書き方やプレゼンテーションの作り方や発表の仕方やアメリカの文化、アメリカの大学や会社について学んだ。

2. RUBeC 演習に参加した理由と目的

私がRUBeC演習に参加したのは、修士のうちに英語論文を書きたい、または国際学会に参加したい、英語で日常会話をできるようにになりたい、海外を経験したいと考えたからだ。そこで、RUBeC演習での目的は、自分の研究をプレゼンテーションにまとめ発表できるようにすることを目的とした。

3. 授業内容と学んだこと

3.1 ライティング

ライティングでは主に、英語で自分の研究の抽象トクトを完成させることを目的として授業が行われた。抽象トクトを完成させるため、冠詞や前置詞の使い方、重文や複文の作り方などを学ん

だ。そして、英語で文章を作る練習としてクラスのパートナーの自己紹介や環境問題についての文章を作成した。このような練習を重ねながら、自分の研究の抽象トクトを修正していった。また、専門的な部分ではライティングの先生と本大学の先生と話し合いながら進め、抽象トクトを完成させた。授業の最終回にはこの抽象トクトをもとに1対1のプレゼンテーションを行った。この経験により、これから英語の投稿論文を作成するための助けになるだろうと考える。

3.2 プレゼンテーション

プレゼンテーションの最終的な目的は英語のプレゼンテーションを完成させ、英語で発表することであった。英語で発表をするため、自分の話す英語を相手にしっかり聞き取ってもらえる英語の話し方を学んだ。例えば、話す時の声量の大きさ（ボリューム）や文の区切り方（チャンク）、話す時の、声の上り下がり（イントネーション）、単語のなかでどこを最も強勢して読むか（ワードストレス）などである。実際、ボソボソとしゃべっても伝わらないし、チャンク一つで相手への伝わり方が変わってしまうし、イントネーションやワードストレスがうまくできてないと通じないことがあると身をもって感じた。また、理想的なスライドの形やアイコンタクトやジェスチャー、ボディランゲージの使い方などプレゼンの基本でありながら実践するのが難しいこ



プレゼンテーション発表のようす

とも学んだ。そして、最後には英語で自分の研究内容のプレゼンテーションを作り発表した。この経験により、プレゼンテーションを用いて英語で自分の研究を発表する技術が向上した。今後国際学会に参加し、今回の経験を生かしたい。

4. 協定校である UC Davis への訪問

本学との協定校である、カリフォルニア州デービス市に拠点を置くアメリカ合衆国の州立大学である UC Davis に訪問した。最初に UC Davis の学生のガイドを聞きながら、構内を散策した。その後、工学部の教授による UC Davis についての講演を聞かせて頂いた。UC Davis の敷地に入る直前や散策中にわかっていたが、UC Davis はキャンパスだけで 2100 ha と広大な敷地を持っており、一般的な大学にはない飛行場や消防署が備わっている。キャンパスが広いためキャンパス内の移動には一般的に自転車が使われており、学内の道路には中央分離線やロータリー交差点のような自転車交通を円滑に行う工夫がされている。その他にも、UC Davis は UC Davis Natural Reserve System と呼ばれる保護林群などメインキャンパス外に研究用の土地を所有している。また、UC Davis 周辺にはナパバレーやヨセミテ国立公園といった大自然があり、シリコンバレーも近くにあるため UC Davis は非常に立地の良い場所にある。UC Davis の工学部は生物・農業工学、生体医工学、化学工学・材料科学、土木・環境工学、コンピューターサイエンス、電子コンピュータ工学、機械・航空宇宙工学の7つの学科からできて



UC Davis 工学部前

いる。

最後に、Geotechnical Modeling Facility を案内して頂いた。さらにこの施設の別館にある、半径 9 m もある遠心模型実験装置を見せて頂いた。この装置は 1 分間に約 60 回転させることができ、遠心力により 75 G まで再現できる。この装置により大型の地盤を再現し、任意の外力を載荷することで、実物と同様の強度・変形・水理特性が正確に把握できる。この巨大な遠心装置とは別に小型の遠心機もあり、時と場合により使い分けられていた。

5. おわりに

私は RUBeC 演習を通して、英語論文執筆や国際学会での発表へ向けてのスタートを切れたと感じている。また、この 2 週間を経験して海外への興味がさらに高まった。今後、積極的に海外へ行きたいと考えている。これから、この経験を生かしてさらに努力し、充実した大学院生活にしていきたい。